

VI. 稲蔭正彦 発起人挨拶:「スマートとは」

プラットフォームというのはモノが流れる、流すためのパイプであって、何を流すのかということが次ぎに大事なこととなってくる。スマートという言葉は何なのか、独断と偏見も含めこの機会に考えてみた。

スマートという言葉を目にしたとき思い浮かべるキーワードと状況を少し考えていただきたい。私にとってはスマートホンがネットにつながるということが象徴的であり、普通の携帯とスマートホンの比較をすると多機能であったり、もう少し広範囲にスマートが使われていることを考える時、人がやると時間がかかることを高速にできること、人を超越するような機能があったり、もっと単純に便利であるということ、スマート TV など、こういったことでスマート何と何とされている。

| | |
|----------------|-----|
| IT=ネットにつながる | 多機能 |
| スマートとは？ | |
| おもてなし | WOW |

私はこの他に2つの言葉を加えたい。おもてなしとWOW、この2つは更に大事になると思います。おもてなしは日本の文化として大事にして人と人を繋ぐ、気持ちを繋ぐということだと思います。すなわちスマートはただ便利だけでなく人の気持ちを汲みとることが出来、察することが出来、そして提供するという一連の流れだと思う。WOWという言葉はアメリカ人は想像以上のことが起こると使う。日本人は可愛いとか言う時に使うが、アメリカ人においては想像以上のことが提供された時、スマートという言葉とWOWという言葉がセットで発せられる、すなわち一番印象に残る時に使うのです。

そのようなスマートな言葉に対して、スマートな世界ではどのようなものによって、スマートな世界が作り出されるのか。一方で研究グループではInternet of Thingsのような分野が注目されており家電ではないようなもの、例えば家具、照明器具もネットにつながっていく。車のワイパですね。ワイパが沢山使われているとそこは雨なんだ。いろんなものがネットにつながって、いろんな情報がわかりますし、結果的にスマートな社会となっていきます。

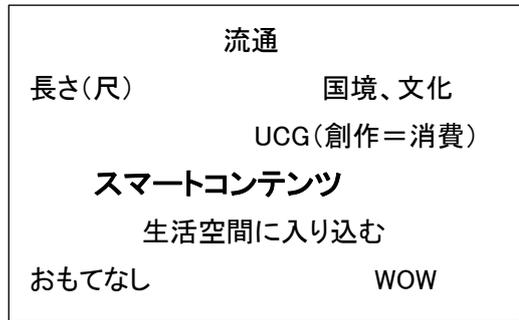
| | |
|-------------------|------------------------|
| デバイス | モノ(Internet of Things) |
| スマートな世界とは？ | |
| 空間・環境 | 生き物(人、動植物) |

このスマートな世界は多くのセンシングデバイスによって支えられます。センシングデバイスは空間建物様々な場所に設置されるようになって来ました。例えばロンドンの町を歩いていると、テロ対策としていろいろなTVカメラが設置されているが、そういったものもセンシングデバイスと考えると、町中に加速度的に増えていく。いわゆるセキュリティ目的を超えた形でいくと、目の前の看板が自分に向けたメッセージを流してくる、という自分を環境が知っているという状況が出てくる。オフィスに入ろうとすると何もしないで、自分の勤めている階にエレベータが止まる。そういうような事が起こりえます。かつ人口的に作られるものだけでなく、動植物も結果的にはセンシングの役割をはたします。人は咳きをします。その咳きもある人がセンシングした結果であるとする人もセンシングの一部であると考えられる。

さてスマートな世界で一番おもてなしがピンと来るのがホテルなどのコンシェルジェという職種です。人の気持ちを汲み取ってアドバイスなどをするプロフェッショナルですが、一歩間違えますとそれがおせっかいとなる。さてここがテクノロジーがないところのレイヤでスマートな世界を実現するとき、良かれと思っていることがおせっかいになってしまうことが時々あります。ここをどのように解決していくかもスマートな世界を実現していく上で大事なことではないかと思います。

| |
|----------------|
| おもてなし |
| コンシェルジェ |
| おせっかい |

最後にクリエイターの私の立場として、コンテンツをどのように流通させるかも大事なことです。スマートなテクノロジーによって進化をする。スマートコンテンツという言葉をあえて使わせていただきます。スマートコンテンツにおいてはこれまでの映像例えば TV 番組は何分という長さ(尺)であるとかある一定のフォーマットという規制がかなり柔軟に変わっていく。流通するメディアも大きく変わっていきます。村井先生は国境をすべて越えていくとおっしゃいましたが、そのとおりでありますが一方で我々は異文化と地域性のある 3 次元空間に生きていますので国境を越えるコンテンツではありますが、文化差を吸収して世界中同じ文化に行くんだということは乱暴だと思うので、その意味でむしろクールジャパンが表しているようにその地域性を持ったコンテンツがより注目度を浴びるのだと思います。また、UGC では作り手と消費者が同一人物になる。大きくコンテンツを作る世界が既に変わっております。



それではスマートコンテンツというものは次の数年後にどうなっているのか。それは今までに無いような映像、音楽の世界が来るのではないか、既にパスワードではないですが私が興味をもっているのにソーシャルビデオというのがあります。ソーシャルメディアとビデオを組み合わせた新しいソーシャルメディアのコンテンツ商品です。そしてインタラクティブなコンテンツも単に指を動かして選択していくという世界から体全体を使って操作をしていく時代が変わっていくわけです。そして先ほど申し上げたようないろいろ身近なモノ達(プロダクト)とか衣服とか建物とかがコンテンツになっていくと思います。

既にゴーグルグラスのように身に付けるというものが登場していますしドンドン加速化していきます。モノだけでなく、コンテンツを作る側からも意識していく必要がありますし。うまく使い込むなり一部に取り込むことが大事になります。スマートプラットフォームは技術だけのテーマではなくして、消費者使い手がこのようなコンテンツを作り流通させ、使っていくその先にはおもてなしとか WOW という世界が日本発でまたジャンルとして発信できることが数年間で出来ると日本のコンテンツ力は国際競争力を更に増すと信じています。私の思いとしてはこのフォーラムをコンテンツの立場からこのように考えております。

(以上)